

ハートフォードNK V3

変額個人年金保険 I 型2003

特別勘定の月次運用レポート

2024年3月末現在

- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険に含まれる手数料などのご留意点について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.10%の割合で資産残高から毎日控除されます。

●運用関係費用:ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.65%(税抜1.50%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。

●年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。

●解約控除:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約、一部解約(引出を除く)をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%~1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。

※解約控除対象額は、全部解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

*この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費)」」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約控除」がかかります。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

[引受保険会社] オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

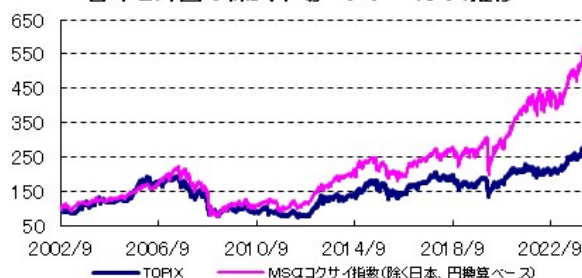
市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	3.07%	20.63%	26.72%	43.96%	38.35%
	TOPIX(東証株価指数)	3.47%	17.00%	19.16%	38.19%	41.69%
日本債券	NOMURA-BPI総合	▲ 0.11%	▲ 0.51%	0.37%	▲ 2.20%	▲ 4.98%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	4.00%	15.34%	22.00%	41.25%	69.73%
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	1.20%	5.04%	8.29%	15.80%	17.31%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	0.49%	6.75%	1.22%	13.39%	36.76%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

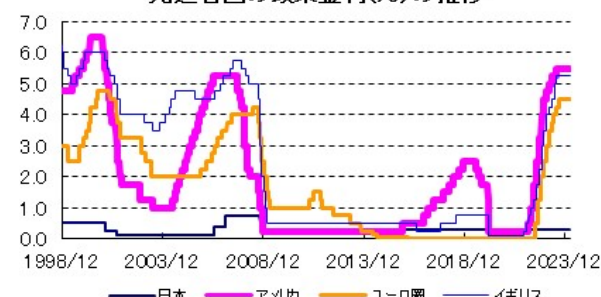


*上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



*上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定(ファンド)グループ

特別勘定と投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
日本株グロースファンド	●				利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)	日興アセットマネジメント株式会社	96.7%	3.3%	19,707
日本株バリューファンド	●				フィデリティ・日本アドバンテージ・ファンドVA*	フィデリティ投信株式会社	96.6%	3.4%	5,120
日本株インデックスファンド	●				日本株インデックスファンド225	アセットマネジメントOne株式会社	96.9%	3.1%	24,926
日本小型株ファンド	●				フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	フィデリティ投信株式会社	97.2%	2.8%	4,177
グローバルグロースファンド	●	●			Gグロース	日興アセットマネジメント株式会社 【運用再委託会社】 ウエリントン・マネージメント・カンパニー・ エルエルビー	96.8%	3.2%	6,887
グローバル債券ファンド				●	ピムコ グローバル債券ファンド	ピムコ ジャパン リミテッド	95.9%	4.1%	1,500
米ドル短期ファンド				●	ニッコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDドル・ポートフォリオ[米ドルMMF]	日興アセットマネジメント ヨーロッパリミテッド	96.9%	3.1%	1,287
GWバランスファンド	●	●		●	GWバランスファンドが投資する投資信託の詳細については、下表をご参照ください。 資産配分の助言に関する会社:日興グローバルラップ株式会社		97.1%	2.9%	13,069
マネーファンド	-	-	-	-	銀行預金	-	0.0%	100.0%	1,620

* 適格機関投資家転売制限付きの投資信託です。

GWバランスファンドが投資する投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象	運用会社	資産内訳		資産額 合計 (百万円)
	株式		債券				資産額 (百万円)	配分 (%)	
	日本	外国	日本	外国					
GWバランスファンド	●				利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)	日興アセットマネジメント株式会社	2,981	22.8%	13,069
	●				フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	フィデリティ投信株式会社	1,250	9.6%	
	●	●			Gグロース	日興アセットマネジメント株式会社 【運用再委託会社】 ウエリントン・マネージメント・カンパニー・ エルエルビー	4,447	34.0%	
				●	ピムコ グローバル債券ファンド	ピムコ ジャパン リミテッド	4,007	30.7%	
	-	-	-	-	現預金その他	-	383	2.9%	

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定(ファンド)グループ

投資信託の運用方針

投資対象の投資信託	運用方針
利益還元成長株オープン(愛称:Jグ ロース)	今後の成長性が見込まれ、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資することで、TOPIX(東証株価指数)配当込みを中長期的な観点から上回る投資成果の獲得を目指します。銘柄選定では、直接企業を訪問し、経営の方向性、事業環境、競争力の有無等を見極めます。※1
フィデリティ・日本アドバンテージ・ ファンドVA*	割安な状態にある企業の株式に投資することによりRUSSELL/ NOMURA Total Market Valueインデックスを上回る投資成果を目指します。「割安な状態にある企業」の選定については、企業の本質的な価値を分析し、その企業価値に対する割安性に注目します。
日本株インデックスファンド225	わが国の株式を主要投資対象とし、原則として、日経平均株価(日経225)採用銘柄の中から200銘柄以上に同指数における個別銘柄の比率と同程度となるように投資を行い、日経平均株価に連動する投資成果を目指します。
フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	主に日本国内の小型株に投資することにより、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスを上回る投資成果を目指します。個別企業分析により、比較的規模の小さい高成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。日本株式の価格変動リスク等があります。
Gグロース	主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見ても競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。※2
ピムコ グローバル債券ファンド	主に世界の主要国の債券に分散投資を行い、中長期的な観点から、世界主要各国の債券市場全体(ブルームバーク・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし))を上回る投資成果を目指します。
ニッコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDル・ポートフォリオ[米ドルMMF]	買付時において、Aa3/AA-またはP-1/A-1以上の高格付米ドル建短期債券、変動利付債、またCP、CD等の短期金融商品に投資することで、元本を維持し、流動性を保ちつつ、好収益を獲得することを目指します。
[GWバランスファンド] 投資信託の組み合わせ 利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース) フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2 Gグロース ピムコ グローバル債券ファンド	各投資信託への投資を通じて、国内株式・世界株式・世界債券等へ分散投資を行い、積立金の長期的な成長を目指します。運用にあたっては、日興グローバルラップ株式会社より、投資信託の組み合わせ(資産配分)に関する助言を受けます。長期的観点から長期基本資産配分を策定し、これに中期的な市況見通しを加味した推奨資産配分比率に従って4つの各投資信託に分散投資を行うことにより、リスク分散に留意した運用を目指します。※ GWバランスファンドの各投資信託の運用方針については、上記の各投資信託の運用方針をご参照ください。
銀行預金	元本の安全性・流動性を確保するために銀行預金で保有します。

* 適格機関投資家転売制限付きの投資信託です。

※1 2024年3月にベンチマークを変更しましたが、実質的な運用方針に変更はございません。

※2 2024年1月にベンチマークを変更しましたが、実質的な運用方針に変更はございません。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

日本株グロースファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	4.21%	16.62%	18.87%	33.54%	31.87%	202.53%

日本株バリューファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	5.49%	15.19%	15.89%	36.29%	49.85%	248.40%

日本株インデックスファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.43%	20.20%	25.57%	41.78%	35.46%	211.39%

日本小型株ファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.98%	6.39%	13.74%	18.79%	8.10%	63.70%

グローバルグロースファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.90%	19.64%	29.24%	45.06%	39.63%	263.23%

グローバル債券ファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.48%	5.26%	6.85%	13.97%	12.16%	62.30%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

米ドル短期ファンド



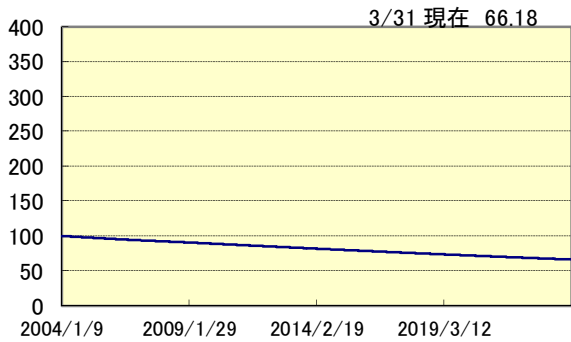
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.67%	7.25%	2.15%	15.22%	34.64%	15.84%

GWバランスファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.72%	12.97%	17.87%	29.33%	25.96%	134.67%

マネーファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-0.17%	-0.52%	-1.04%	-2.07%	-6.10%	-33.82%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株グロースファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)

【運用会社】

日興アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

日本の上場および店頭株式。主にJグロース マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

今後の成長性が見込まれ、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資することで、TOPIX(東証株価指数)配当込みを中長期的な観点から上回る投資成果の獲得を目指します。銘柄選定では、直接企業を訪問し、経営の方向性、事業環境、競争力の有無等を見極めます。

<運用担当者のコメント>

(データは2024年3月29日現在)

市場環境

3月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス3.47%の上昇、日経平均株価が同プラス3.07%の上昇となりました。前半は、日銀が近い時期にマイナス金利政策を解除するとの観測が強まったことなどから株価は下落しました。後半は、日銀が金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除や上場投資信託(ETF)の買入れ終了などを決定しましたが、日銀総裁の記者会見での発言などから緩和的な金融環境が当面続くとの見方が広がったことや、米連邦準備制度理事会(FRB)の会合の参加者による政策金利の見通しやFRB議長の見解の発言を受けて、FRBの年内の利下げが想定通り行われると期待されたことなどが、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、不動産業、鉱業、石油・石炭製品などの28業種が上昇する一方で、海運業、精密機器、医薬品などの5業種が下落しました。

運用概況

当ファンドでは、独自の製品やビジネスノウハウによって持続的な成長を遂げることができる企業に引き続き注目するとともに、景況感の改善が続き、企業業績も底堅いという良好な日本株の投資環境を考慮した運用を行ないました。今月は、政策保有株を削減するスピードを速め、株主への配分強化が期待できる損害保険株や、都心5区の空室率が低下してきたことで賃料引き上げが期待できる不動産株を新規に組み入れたほか、化学、機械、電気機器、商社などの主力企業を買増しました。一方、株価が上昇した鉄道株や通信株などの一部を売却して利益を確定したほか、少ない比率で保有していた小型株の売却を行ないました。

当ファンドの基準価額は、不動産株や機械株のオーバーウェイトと、総合重機株、小売株の株価上昇などが寄与してTOPIXの上昇率を上回りました。

今後の見通し

今後の株式市場を考える上で、物価上昇を上回る賃上げが実施されることが重要と考えられますが、春闘のこれまでの回答集計によれば、大企業中心ではあるものの定期昇給部分を除くベースアップ率が3%を大きく上回っており、中小企業が加わっても実質賃金がプラスに転じることが期待できます。持続的な賃上げによって製品価格への転嫁メカニズムが回復すれば、物価は緩やかな上昇が続き、日本はデフレを完全に克服して正常な経済に戻れると期待しています。

企業業績は、経済の正常化による売上の増加や円安の定着、半導体市場の回復や原材料価格の落ち着きによる利益率改善などから、2024年度も底堅く推移するとみえています。金融政策では、日銀がマイナス金利政策の解除を決めましたが、当面は金融緩和的環境を継続する方針を示しています。堅調な景気・企業業績や安定した金融政策が継続する日本は、これからも投資先として好評価を得やすいと思われます。加えて、企業が資本コストや株価を意識した経営を実践するために、事業構造改革や成長投資に加え、増配や自社株買いといった株主還元への取り組み強化が続くという期待も株価を下支えするとみえています。

当ファンドでは、経済の構造変化に対応して持続的な利益成長を実現できる質の高い企業を中心に据え、各企業の業績や株主還元姿勢を見極めた投資銘柄の選別によって良好なパフォーマンスの獲得をめざしてまいります。

運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<資産構成比>

株式	98.2%
うち先物	0.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	1.8%
外貨建て資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	19.4%
2	機械	9.2%
3	輸送用機器	8.8%
4	情報・通信業	7.8%
5	卸売業	6.9%

「国内株式組入上位5業種」「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。「資産構成比」「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産総額、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

このレポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

【純資産総額】 291.03億円 基準価額】 32,191円
【決算日】 原則6月25日 信託期間】 無期限
【設定日】 1991年6月26日

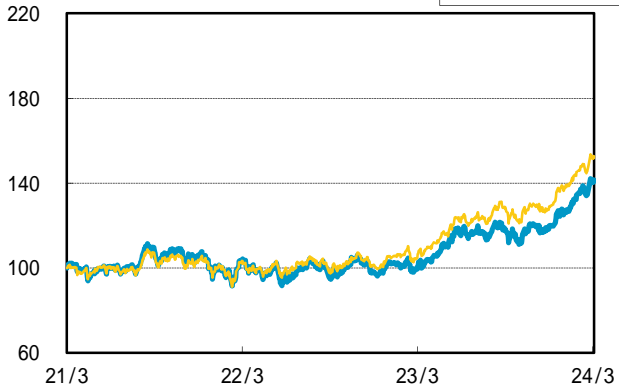
<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	17.70%	20.64%	37.41%	41.22%	277.53%
ベンチマーク	18.14%	20.55%	41.34%	52.53%	149.80%

基準価額の騰落率および推移グラフは分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<分配金込み基準価額の指数化グラフ>

(2021年3月31日を100として指数化)



ベンチマークはTOPIX(東証株価指数)配当込みです。2024年3月27日に、当ファンドのベンチマークを「TOPIX(東証株価指数)」から「TOPIX(東証株価指数)配当込み」に変更しました。TOPIX(東証株価指数)配当込みに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPM総研または株式会社JPM総研の関連会社に帰属します。

基準価額は、信託報酬控除後の値です。当ファンドの信託報酬は、運用実績に応じて変動する「実績報酬制」を採用しております。

<国内株式組入上位10銘柄> (銘柄数 108銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ソニーグループ	電気機器	3.40%
2	三菱商事	卸売業	3.31%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.31%
4	東京エレクトロン	電気機器	3.06%
5	信越化学工業	化学	2.98%
6	キーエンス	電気機器	2.70%
7	日立製作所	電気機器	2.48%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.43%
9	HOYA	精密機器	2.09%
10	三菱重工業	機械	2.00%

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株バリューファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本アドバンテージ・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付き)

【運用会社】

フィデリティ投資株式会社

主要投資対象

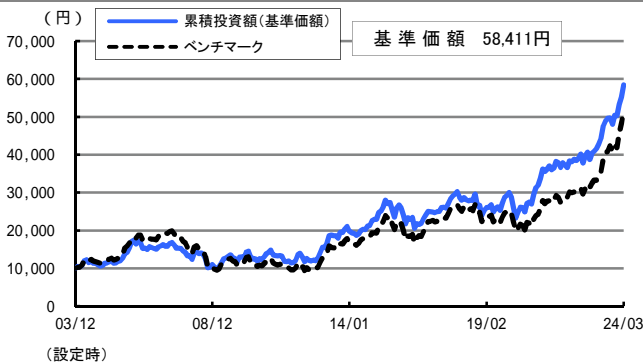
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本バリュー・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

割安な状態にある企業の株式に投資することによりRUSSELL/ NOMURA Total Market Valueインデックスを上回る投資成果を目指します。「割安な状態にある企業」の選定については、企業の本質的な価値を分析し、その企業価値に対する割安性に注目します。

設定来の運用実績

(2024年3月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

累積リターン

(2024年3月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	5.82%	16.19%	17.52%	40.44%	61.54%	484.11%
ベンチマーク	6.59%	22.87%	21.49%	54.91%	84.37%	414.37%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク: Russell/Nomura Total Market Value インデックス(配当金込)*
*Russell/Nomura Total Market Valueインデックス(配当金込)とは、Russell/Nomura 日本株インデックスのバリュースタイル指数です。Russell/Nomura Total Marketインデックスの低PBR銘柄で構成されており、Russell/Nomura Large Cap Value および Russell/Nomura Small Cap Value インデックスを含みます。Russell/Nomura Total Market Value インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Total Market Value インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Total Market Value インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第16期(2019.05.07)	0円
第17期(2020.04.30)	0円
第18期(2021.04.30)	0円
第19期(2022.05.02)	0円
第20期(2023.05.01)	0円

コメント

(2024年3月29日現在)

当月の東京株式市場は、日銀のマイナス金利政策が解除されてデフレ脱却期待が高まり、日経平均株価は史上最高値を更新しました。前月からの上昇の勢いを受け継ぎ、日経平均株価は月初に史上初となる4万円の大台に到達しました。その後は米半導体株の下落や、日銀の政策変更を睨んで円高が進んだことなどがマイナス要因となって反落を強いられましたが、春闘で昨年よりも高い賃上げ率が確認されてデフレ脱却期待が高まると、市場で日銀の政策転換の織り込みが進み、株価は力強く上昇しました。日銀はマイナス金利や長短金利操作、上場投資信託買入れなどの政策の終了を決定した上で、緩和的な金融環境を継続すると強調した一方、米連邦準備制度理事会は年内3回の利下げを行う方針を維持し、日米の金融政策決定会合が大方の事前想定通りに通過したことが株価を一段と押し上げました。日経平均株価は一時41,000円台に乗せるなど、終値で史上最高値を再び更新した後、月末にかけては利益確定売りや3月期決算企業の配当落ちの影響などからやや調整しましたが、そのまま4万円台を維持して月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.44%、日経平均株価は+3.07%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

純資産総額

51.0 億円

(2024年3月29日現在)

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.4%
2	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.5%
3	伊藤忠商事	卸売業	3.8%
4	東京エレクトロ	電気機器	3.4%
5	トヨタ自動車	輸送用機器	3.1%
6	日立製作所	電気機器	3.0%
7	住友林業	建設業	2.9%
8	信越化学工業	化学	2.9%
9	関西電力	電気・ガス業	2.8%
10	ソニーグループ	電気機器	2.7%

(組入銘柄数: 71)

上位10銘柄合計 34.6%
(対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

資産別組入状況

株式	99.5%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	0.5%

市場別組入状況

東証プライム	97.5%
東証スタンダード	2.0%
東証グロース	-
その他市場	-

組入上位5業種

電気機器	19.8%
銀行業	10.0%
輸送用機器	9.4%
建設業	7.5%
卸売業	6.4%

(対純資産総額比率)

- * 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
- * 業種は東証33業種に準じて表示しています。
- * 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株インデックスファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

日本株インデックスファンド225

【運用会社】

アセットマネジメントOne株式会社

主要投資対象

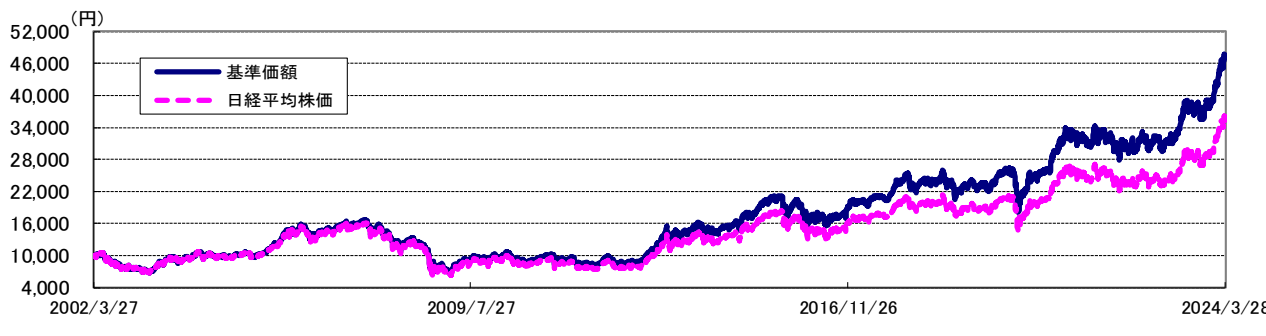
主に日本の上場株式。

運用方針

わが国の株式を主要投資対象とし、原則として、日経平均株価(日経225)採用銘柄の中から200銘柄以上に同指数における個別銘柄の比率と同程度となるように投資を行い、日経平均株価に連動する投資成果を目指します。

2024年3月末までの運用経過

基準価額の推移(税引前分配金再投資)



- ・分配金再投資後基準価額=前日分配金再投資後基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)
(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)
- ・基準価額は税引前の分配金を再投資したものと計算し、指数化していますので実際の基準価額と異なることがあります。
- ・日経平均株価は設定日の終値を10,000として指数化。
- ・基準価額は信託報酬控除後です。

基準価額等情報

基準価額	47,378円
純資産総額	25,578百万円
設定日	2002年3月27日
決算日	2月10日
組入銘柄数	225

分配金情報(税引前)

※直近3年分

第20期(2022.02.10)	0円
第21期(2023.02.10)	0円
第22期(2024.02.13)	0円
設定来累計分配金	0円

※分配対象額が少額の場合には、分配を行わない場合があります。
※分配金は1万円当たり

組入上位5業種

No	業種名	組入比率(%)
1	電気機器	27.22
2	小売業	13.62
3	情報・通信業	9.56
4	化学	6.23
5	医薬品	5.27

※組入比率は純資産総額比

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	5年	設定来
当ファンド	3.71%	21.40%	27.63%	46.04%	45.29%	106.03%	373.78%
日経平均株価	3.07%	20.63%	26.72%	43.96%	38.35%	90.37%	256.50%
差	0.64%	0.77%	0.91%	2.08%	6.94%	15.66%	117.28%

※当ファンド騰落率は税引前の分配金を再投資したものと計算しておりますので実際の投資家利回りと異なる場合があります。

組入上位10銘柄

No	銘柄	業種	市場	組入比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	東証プライム	11.06
2	東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	9.28
3	アドバンテスト	電気機器	東証プライム	4.27
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	東証プライム	4.20
5	信越化学工業	化学	東証プライム	2.57
6	KDDI	情報・通信業	東証プライム	2.10
7	TDK	電気機器	東証プライム	1.75
8	テルモ	精密機器	東証プライム	1.71
9	ファナック	電気機器	東証プライム	1.64
10	ダイキン工業	機械	東証プライム	1.61

※組入比率は純資産総額比

株式市場概況

3月の日経平均株価は上昇しました。上旬は、上昇したものの、日銀のマイナス金利解除観測から円高が進んだことや、過熱への警戒感から下落する場面も見られました。中旬は、春闘で賃上げ率が強めの結果となり、日銀はマイナス金利解除を決定しました。市場では日銀の決定が予想通りと受け止められる中、円安を受けて、上昇しました。下旬は、一段の円安を受けて上昇した後、月末にかけて配当の権利落ちなどから、上昇幅を縮小しました。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2

【運用会社】

フィデリティ投資株式会社

主要投資対象

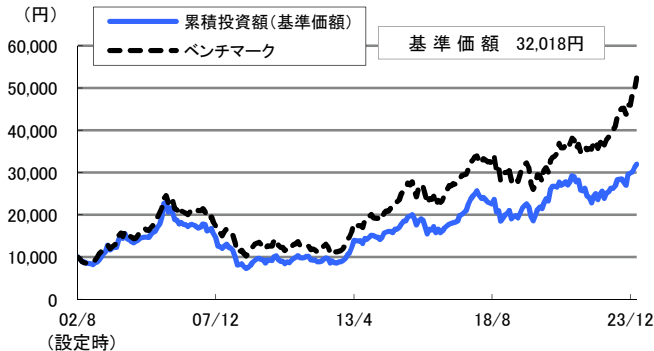
日本の上場株式の小型株。主にフィデリティ・日本小型株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本国内の小型株に投資することにより、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスを上回る投資成果を目指します。個別企業分析により、比較的規模の小さい高成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

設定来の運用実績

(2024年3月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。(設定から2003年8月末までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)を連続させて指数化しております。)※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

コメント

(2024年3月29日現在)

当月の東京株式市場は、日銀のマイナス金利政策が解除されてデフレ脱却期待が高まり、日経平均株価は史上最高値を更新しました。前月からの上昇の勢いを受け継ぎ、日経平均株価は月初に史上初となる4万円の大台に到達しました。その後は米半導体株の下落や、日銀の政策変更を睨んで円高が進んだことなどがマイナス要因となって反落を強いられましたが、春闘で昨年よりも高い賃上げ率が確認されてデフレ脱却期待が高まると、市場で日銀の政策転換の織り込みが進み、株価は力強く上昇しました。日銀はマイナス金利や長短金利操作、上場投資信託買い入れなどの政策の終了を決定した上で、緩和的な金融環境を継続すると強調した一方、米連邦準備制度理事会は年内3回の利下げを行う方針を維持し、日米の金融政策決定会合が大方の事前想定通りに通過したことが株価を一段と押し上げました。日経平均株価は一時41,000円台に乗せるなど、終値で史上最高値を再び更新した後、月末にかけては利益確定売りや3月期決算企業の配当落ちの影響などからやや調整しましたが、そのままだ4万円台を維持して月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.44%、日経平均株価は+3.07%でした。Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス(配当込)が+4.73%、東証グロース市場250指数は-3.36%となり、新興市場は軟調でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

資産別組入状況

株式	99.3%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	0.7%

市場別組入状況

東証プライム	85.9%
東証スタンダード	7.3%
東証グロース	6.1%
その他市場	-

組入上位5業種

化学	12.5%
サービス業	10.5%
機械	7.5%
精密機器	6.2%
小売業	6.1%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
* 業種は東証33業種に準じて表示しています。
* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

累積リターン

(2024年3月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.19%	7.14%	15.35%	21.84%	15.51%	220.18%
ベンチマーク	4.73%	13.96%	15.74%	34.32%	41.76%	423.58%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ ベンチマーク: Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス*(配当金込)
(但し、設定から2003年8月末日までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末日まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)でした。)
※ 累積リターンは、2003年8月末までの東証第二部株価指数(配当金込)、2009年2月末までのRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)、及び現在のベンチマークの騰落率を連続させて計算しております。
*Russell/Nomura Mid-Small Capインデックスとは、Russell/Nomura日本株インデックスの中小型株指数です。Russell/Nomura Total Marketインデックスの時価総額中位35%と時価総額下位15%をカバーし、Russell/Nomura Mid-Small Cap GrowthインデックスおよびRussell/Nomura Mid-Small Cap Valueインデックスを含みます。Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Mid-Small Cap インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第18期(2019.12.02)	0円
第19期(2020.11.30)	0円
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円

純資産総額

54.4 億円

(2024年3月29日現在)

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

	銘柄	業種	比率
1	リゾートトラスト	サービス業	3.2%
2	マニー	精密機器	2.9%
3	大阪ソーダ	化学	2.9%
4	MARUWA	ガラス・土石製品	2.8%
5	コンコルディア・フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
6	ロート製薬	医薬品	2.3%
7	SWCC	非鉄金属	2.2%
8	サンウェルズ	サービス業	2.2%
9	東急不動産ホールディングス	不動産業	2.1%
10	宝ホールディングス	食料品	2.0%

(組入銘柄数: 82)

上位10銘柄合計 24.8%

(対純資産総額比率)

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

グローバルグロースファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

Gグロース

【運用会社】

日興アセットマネジメント株式会社

【運用再委託会社】

ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

主要投資対象

日本を含む先進各国の証券取引所上場株式。主にGグロース/海外株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見て競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。

(データは2024年3月29日現在)

[純資産総額] 123.53億円

[決算日] 原則3月25日

[設定日] 2001年4月20日

[基準価額] 50,043円

[信託期間] 無期限

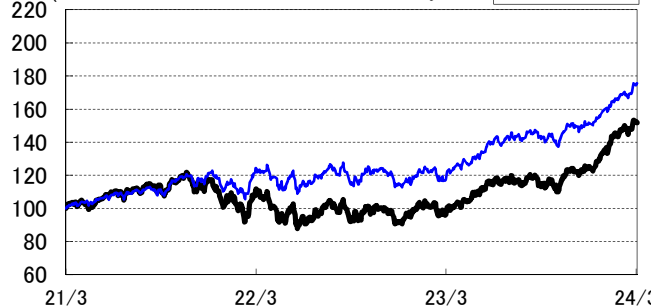
[為替ヘッジ率] 0.0%

<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.26%	21.30%	32.14%	50.61%	51.84%	435.68%
指数	4.16%	15.88%	22.65%	43.46%	75.56%	483.84%

基準価額のパフォーマンスは、当ファンドに分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金込み基準価額の指数化グラフ> (2021年3月31日を100として指数化)



基準価額は信託報酬控除後の値です。

基準価額は当ファンドに過去3年間、分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

「指数」は、MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)です。

MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

2024年1月26日に、当ファンドのベンチマークを「MSCI-WORLDインデックス(円ベース)」から「MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」に変更しました。

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数 58銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	6.3%
2	AMAZON.COM INC	アメリカドル	一般消費財・サービス流通	6.1%
3	MICROSOFT CORP	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	5.3%
4	ALPHABET INC-CL C	アメリカドル	メディア・娯楽	4.4%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカドル	メディア・娯楽	3.8%
6	ELI LILLY & CO	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
7	MASTERCARD INC - A	アメリカドル	金融サービス	3.0%
8	UBER TECHNOLOGIES INC	アメリカドル	運輸	2.9%
9	ADVANCED MICRO DEVICES	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	2.6%
10	AIRBUS GROUP SE	ユーロ	資本財	2.1%

「株式組入上位5ヵ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。

「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

このレポートでは基準価額を1万円当たりで表示しています。

このレポートのグラフやデータ等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<資産構成比>

国内株式(先物含む)	3.2%
外国株式(先物含む)	94.0%
C B	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	2.9%

<株式組入上位5ヵ国>

	国名	比率
1	アメリカ	67.9%
2	オランダ	7.2%
3	フランス	4.6%
4	日本	3.2%
5	アイルランド	3.0%

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

グローバル債券ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

ビムコグローバル債券ファンド

【運用会社】

ビムコジャパンリミテッド

主要投資対象

日本を除く主要先進国の各種公社債。

運用方針

主に米国や、米国以外の世界主要国の債券に分散投資を行い、中長期的な観点から、世界主要各国の債券市場全体(ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし))を上回る投資成果を目指します。

【追加型証券投資信託/ファンドオブファンズ】

【基準価額】 24,427円

【設定日】

2003年4月30日

【決算日】

毎年4月25日

基準価額の推移



ファンドの騰落率は報酬控除後、1年を超える期間は年率換算してあります。

	ファンド	ベンチマーク*	超過収益
1ヶ月	1.73%	1.29%	0.44%
3ヶ月	5.99%	5.55%	0.44%
6ヶ月	8.20%	8.43%	-0.23%
1年	16.95%	17.08%	-0.12%
2年	8.00%	8.35%	-0.35%
設定来	4.36%	4.26%	0.10%

*ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)
(2021年8月24日付で、ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)より名称が変更されております。)

【分配実績】

第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	累計
19/4/25	20/4/27	21/4/28	22/4/28	23/4/25	-
0	0	0	0	0	0

ファンド特性

【ファンドの一般的特性】

平均クーポン	3.53%
平均最終利回り	4.90%
平均デュレーション(年)	5.43
平均償還期間(年)	8.28
平均格付け*	AA
債券組入比率	89.79%

*平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

【種類別配分】

セクター名	組入比率
国債、E-デット債	30.6%
モーゲージ、アセットバック債	30.2%
社債	23.8%
Eマージング債	5.2%
キャッシュ等*	10.2%
合計	100.0%

*「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

【通貨別配分】

国名	組入比率
米ドル	53.6%
ユーロ	23.7%
中国元	8.3%
英ポンド	4.4%
カナダドル	1.7%
オーストラリア	1.6%
その他	6.7%
合計	100.0%

【現物債券上位組入銘柄】

	銘柄名	クーポン	償還日	投資比率
1	FNMA TBA 5.5% MAY 30YR	5.50%	2054/5/13	5.65%
2	FNMA TBA 4.5% APR 30YR	4.50%	2054/4/11	5.61%
3	FNMA TBA 4.0% MAY 30YR	4.00%	2054/5/13	3.58%
4	FNMA PASS THRU 30YR #SD8368	6.00%	2053/10/1	3.29%
5	FNMA TBA 6.0% MAY 30YR	6.00%	2054/5/13	2.74%

運用コメント

《市場コメント》

米国債券相場は、月初、国内の景気減速や労働市場の伸びの鈍化が確認されたことから上昇して始まったものの、2月の米CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことを受け根強いインフレに対する懸念から米利下げ開始が先送りされるとの観測が広がり、下落に転じました。一方、FOMC(米連邦公開市場委員会)において政策金利見直しに変更がなかったことや、パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長がインフレの低下に向けて自信を示したことを受け、年央には利下げが開始されるとの観測が強まったことから、月末にかけて上昇しました。月を通じてみると米国債券相場は上昇しました。(2年債利回りは前月比0.00%上昇、10年債利回りは前月比0.05%低下しました。)

欧州債券相場では、米国のインフレ率が市場予想を上回ったことを背景に米長期金利が上昇したことなどが下落要因となりました。一方で、ECB(欧州中央銀行)理事会においてインフレ率の見直しを引き下げ、2025年には政策目標の2%に低下するとしたほか、ラガルドECB総裁が6月の利下げの可能性に言及したことなどが上昇要因となりました。月を通じてみると欧州債券相場は上昇しました。(2年債利回りは前月比0.05%低下、10年債利回りは前月比0.11%低下しました。)

英国債券相場では、欧州同様、米国の長期金利上昇の流れが波及したことが下落要因となりました。一方、国内の2023年11月-2024年1月の失業率が上昇したことや同賃金上昇率が市場予想を下回ったことを受けて英中銀の利下げ観測が強まったことなどが上昇要因となりました。月を通じてみると英国債券相場は上昇しました。(2年債利回りは前月比0.13%低下、10年債利回りは前月比0.19%低下しました。)

日本債券相場は、月前半、日銀による政策修正観測が高まったことから下落しました。月後半、金融政策決定会合において市場の予想通りマイナス金利の解除が決定されたものの、従来と同規模の国債買入れを継続する方針が示されたことから上昇しました。月を通じてみると小幅に下落しました。(2年債利回りは前月比0.01%上昇、10年債利回りは前月比0.02%上昇しました。)

《パフォーマンス》

先月のパフォーマンスはプラス1.73%となりベンチマークを0.44%上回りました。オーストラリアや英国の金利リスクを多めとしたことがプラスに寄与しました。

市況データ出所:ブルームバーグ

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

米ドル短期ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

ニコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDル・ポートフォリオ[米ドルMMF]

【運用会社】

日興アセットマネジメント ヨーロッパリミテッド

主要投資対象

米ドル建ての短期債券および証書。

運用方針

Aa3/AA-格もしくはP-1/A-1格以上の高格付米ドル建短期債券、変動利付債、またCP、CD等の短期金融商品に投資することで、元本を維持し流動性を保ちながら、市場金利に沿った安定的な収益率を目指します。

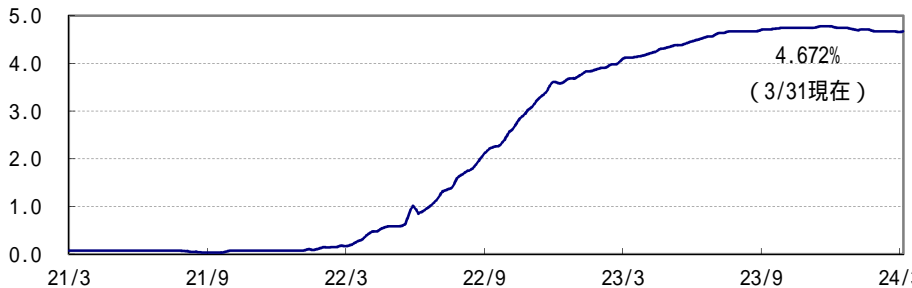
(データは2024年3月31日現在)

[純資産総額]	26.30 億米ドル (約 3,982 億円)	[7日間平均年換算利回り(税引前) 1]	4.672%
[決算日]	毎年12月31日	[加重平均残存期間]	35日
[設定日]	1992年1月17日	[分配方法]	毎日実績分配
[純資産価格 2]	100米ドル	[当月再投資額(税引前) 2]	0.3581米ドル

1: 管理報酬等の控除後の値です。

2: 1万口当たりの純資産価格、再投資額になります。

< 7日間平均年換算利回り(税引前) 1の推移 (%) >



上記はあくまでも過去の実績であり、将来を約束するものではありません。

< 組入上位10銘柄 >

	銘柄	業種	償還日	格付	比率 (%)
1	LANDWIRTSCHAFT RENTENBK 0%	政府機関	2024/5/14	P-1	7.5
2	NEDERLANDSE WATERSCHAPS 0%	政府機関	2024/4/9	P-1	7.5
3	CAISSE DES DEPOTS ET CON 0%	政府機関	2024/4/17	P-1	7.5
4	MUNICIPALITY FINANCE PLC 0%	政府機関	2024/5/21	P-1	5.6
5	LANDESKREDBK BADEN-WURTT 0%	政府機関	2024/5/28	P-1	5.6
6	LANDESKREDBK BADEN-WURTT 0%	政府機関	2024/4/30	P-1	5.6
7	CAISSE DES DEPOTS ET CON 0%	政府機関	2024/4/19	P-1	5.6
8	LANDESKREDBK BADEN-WURTT 0%	政府機関	2024/6/12	P-1	5.6
9	MUNICIPALITY FINANCE PLC 0%	政府機関	2024/6/18	P-1	5.3
10	LANDWIRTSCHAFT RENTENBK 0%	政府機関	2024/4/15	P-1	3.8

変動利付債は、「次回利払日」を償還日としています。

「格付分布」及び「組入上位10銘柄」の格付の記号は、ムーディーズ社の表記方法で記載しています。

したがって、S & P社のA-1及びA-1+はP-1、AAAはAaa、AAはAaにそれぞれ含まれています。なお、格付は、ムーディーズ社、S & P社のうち、高い格付を採用しています。(保証機関の格付を採用する場合があります。)

< 格付分布 >

現預金等	14.9%
P-1	85.1%
P-2	0.0%
Aaa	0.0%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
合計	100.0%

< 残存年限別構成比 >

現預金等	14.9%
30日以内	36.6%
90日以内	48.4%
180日以内	0.0%
1年以内	0.0%
1年超	0.0%
合計	100.0%

変動利付債は次回利払日までの日数で計算しています。

< 資産構成比 >

CD	0.0%
CP	85.1%
変動利付債	0.0%
普通債	0.0%
現預金等	14.9%
合計	100.0%

当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定の運用レポート

【特別勘定名】

GWバランスファンド

【特別勘定が投資する投資信託】-投資信託の組合せ-

- ①利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)
- ②フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2
- ③Gグロース
- ④ピムコ グローバル債券ファンド

【資産配分の助言に関する会社】 日興グローバルラップ株式会社

主要投資対象

国内株式・世界株式・世界債券等を主要投資対象とする投資信託。主に、利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)、フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2、Gグロース、ピムコ グローバル債券ファンドの各投資信託証券を通じて投資が行われます。

*「投資信託証券」とは、証券投資信託の受益権または受益証券(マザーファンド受益証券を除きます。)及び証券投資法人の投資証券をいいます。

運用方針

各投資信託への投資を通じて、国内株式・世界株式・世界債券等へ分散投資を行い、積立金の長期的な成長を目指します。運用にあたっては、日興グローバルラップ株式会社より、投資信託の組み合わせ(資産配分)に関する助言を受けます。長期的観点から長期基本資産配分を策定し、これに中期的な市況見通しを加味した推奨資産配分比率に従って4つの各投資信託に分散投資を行うことにより、リスク分散に留意した運用を目指します。

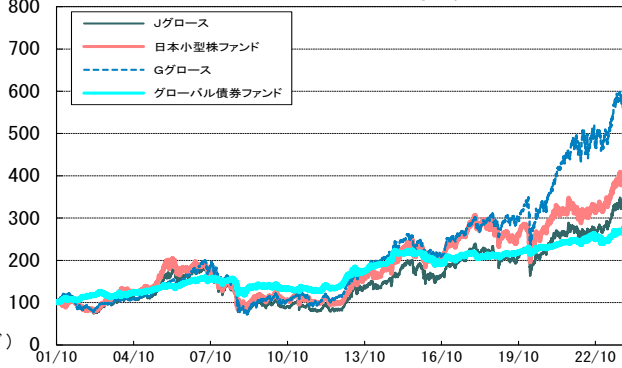
組入投資信託の資産配分状況

(データ:2024年3月末現在)

<組入投資信託の資産配分比率と収益率>

組入投資信託	資産配分比率	3ヵ月	6ヵ月	1年	GWバランス 組入投資信託変更前 (2003年7月1日)
Jグロース	23%	17.70%	20.64%	37.41%	473.70%
日本小型株	10%	7.14%	15.35%	21.84%	239.35%
Gグロース	34%	21.30%	32.14%	50.61%	553.83%
グローバル債券	33%	5.99%	8.20%	16.95%	134.18%

<ベンチマークのパフォーマンス指数化グラフ>



- ・上表の騰落率は、各組入投資信託の基準価額をもとに日興「ローバルラップ」が算出。
- ・上表はGWバランスファンドに組入れられる投資信託のパフォーマンスであり、特別勘定(日本株「ロスファンド」、日本小型株ファンド、グローバル株「ロスファンド」、グローバル債券ファンド)のパフォーマンスではありません。
- ・組入投資信託は今後、追加・変更となる場合があります。
- ・資産配分比率は中期的な市況見通しにより変更される場合があります。上記の資産配分比率は2020年12月10日に変更されています。
- ・右上げグラフは、各組入投資信託のベンチマークについて、GWバランスの設定日(2001年10月1日)を100として指数化(円ベース)。
- ・右上げグラフは、GWバランスファンドに組み入れられる投資信託のベンチマークのパフォーマンスであり、特別勘定のパフォーマンスではありません。

<組入投資信託のベンチマーク>

Jグロース:TOPIX(東証株価指数)配当込み
日本小型株ファンド:RUSSELL/NOMURA Mid-Small Capインデックス※
Gグロース:MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)*
*2024年1月26日に、Gグロースのベンチマークを「MSCI-WORLDインデックス(円ベース)」から「MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」に変更しました。
グローバル債券ファンド:ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円建て、ヘッジなし)※

※RUSSELL/NOMURA Mid-Small Capインデックスの知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NRCJ」)およびFrank Russell Companyに帰属します。また両社は、当インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当インデックスを用いて運用される当ファンドの運用成果等に関し一切責任を負いません。
※「Bloomberg」および「ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円建て、ヘッジなし)」は、Bloomberg Finance LPおよび、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limited(以下「BISL」)をはじめとする関連会社(以下、総称して「ブルームバーグ」)のサービスマークであり、日興グローバルラップ株式会社による特定の目的での使用のために使用許諾されています。ブルームバーグは日興グローバルラップ株式会社とは提携しておらず、また、当資料を承認、支持、レビュー、推奨するものではありません。ブルームバーグは、当資料に関連するいかなるデータもしくは情報の適時性、正確性、または完全性についても保証しません。

<資産配分に関するコメント>

(出所)日興グローバルラップ株式会社

世界株式市場は上昇しました。日本株式市場は、月の月上旬は米国株高に連れて上昇しましたが、その後マイナス金利解除の見通しで軟調に推移しました。19日には、日銀がマイナス金利を解除したものの、緩和的な金融政策が継続するとの見方から上昇しました。米国市場では、月の中旬に発表された米国の消費者物価指数(CPI)を受けて、物価が落ち着きつつあるとの見方に加え、米連邦公開市場委員会(FOMC)後のパウエル議長の発言から利下げ期待が高まったことなどから上昇しました。欧州市場は、当月は、欧州中央銀行(ECB)や英国イングランド中央銀行がハト派的な見通しを示したことに加え、スイス国立銀行が利下げを決定するなど、欧州地域の利下げ期待が高まったことから上昇しました。

海外債券市場は上昇しました。FOMCを控えてのポジション調整により米10年国債利回りが上昇する局面はあったものの、中旬に開催されたFOMCでインフレ鈍化シナリオに変化はないとし、年3回の利下げ見通しが維持されたことで、米10年国債利回りは低下に転じ、海外債券市場は上昇しました。

為替市場では、前月末に1ドル=149円台にあった円の対ドル相場は、月の月上旬は日銀がマイナス金利政策を解除し、大規模緩和策の修正を検討する見方が広がったためドル売り・円買いとなりましたが、中旬以降は米国でインフレ長期化により利下げ先送りの見方が強まったことを受け、ドル買いが進み、151円台で月末を迎えました。前月末に1ユーロ=161円台にあった円の対ユーロ相場については、月の月上旬は、ECBが政策金利の据え置きを決めたものの、ECB総裁が利下げの可能性を示唆したため、リスク回避のユーロ売り・円買いが活発となりましたが、その後、日本で緩和的な金融環境が維持されるとの見通しが強まったため、中旬から月末にかけてユーロ買い・円売りが進行し、163円台で月末を迎えました。

今後は展望すると、世界株式市場では、米国で景気堅調を背景に早期の利下げ期待が後退するなど株価調整リスクもありますが、日米の良好な企業業績見通しや欧州金融当局の利下げ姿勢の明確化などが相場の下支え要因となると考えられます。世界債券市場については、米欧では先行き利下げ転換が見込まれ、長期金利は緩やかに低下して債券価格は底堅く推移するとみられますが、日本ではマイナス金利解除が実施されたことで先行きの金利上昇が意識されて、軟調な展開が予想されます。為替市場に関しては、日銀の政策正常化実施に続き、米欧の利下げ転換が予想され、内外金利差は先行き縮小見込みではありますが、日銀は追加的な利上げには消極的とみられ、円高方向への調整が生じても安値圏に留まることが見込まれます。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

オリックス生命からのお知らせ

ハートフォード生命保険株式会社は、2015年7月1日にオリックス生命保険株式会社と合併し、

現在はオリックス生命保険株式会社として引き続きお客さまのご契約をお守りしています。

オリックス生命保険株式会社は、The Hartford Financial Services Group, Inc.

またはその関係法人の関連会社ではありません。